

Economic Indicators

発表日: 2023年6月30日(金)

鉱工業生産(2023年5月)

～4-6月期は3四半期ぶり増産の見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

	鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財		
	生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷		
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	
22年	1月	▲0.8	▲0.7	▲0.9	▲1.8	▲0.5	5.9	1.3	6.4	1.5	7.7	▲1.0	▲5.0
	2月	1.3	0.0	0.6	▲1.9	1.8	8.6	0.5	8.7	▲2.2	1.1	0.5	▲3.6
	3月	▲0.3	▲1.6	0.7	▲2.7	▲0.4	7.9	▲0.1	10.0	0.4	5.9	▲0.5	▲5.6
	4月	▲0.4	▲4.7	0.3	▲4.6	▲3.5	4.4	▲1.6	8.0	2.2	▲0.6	0.7	▲5.6
	5月	▲4.4	▲2.7	▲3.8	▲3.3	0.5	4.5	3.4	8.5	0.1	2.2	▲1.0	▲3.4
	6月	5.0	▲3.0	3.2	▲3.3	1.5	4.7	▲0.7	8.6	2.3	2.6	1.4	▲3.2
	7月	0.6	▲1.8	0.7	▲2.1	0.7	5.1	1.4	10.4	4.5	9.6	1.1	▲1.5
	8月	1.4	5.7	0.8	5.5	1.1	6.2	▲0.3	4.9	5.8	18.8	▲0.5	8.9
	9月	▲0.5	8.7	▲0.7	9.6	1.7	6.2	2.8	5.0	▲5.4	13.4	▲0.3	18.0
	10月	▲1.7	3.1	▲0.6	4.7	▲0.2	5.0	▲1.5	3.7	▲1.7	10.6	1.5	7.2
	11月	0.0	▲1.4	▲0.4	▲0.8	0.0	3.5	1.3	6.6	▲3.9	2.5	▲0.9	1.9
	12月	▲0.6	▲2.2	▲1.2	▲3.1	▲0.1	2.7	2.2	10.5	2.7	3.9	0.2	0.0
23年	1月	▲3.9	▲2.8	▲3.2	▲2.9	▲0.7	2.4	2.0	9.6	▲10.6	▲5.2	▲2.5	1.2
	2月	3.7	▲0.6	4.3	0.7	1.0	1.6	▲1.6	5.9	7.2	2.2	4.9	4.1
	3月	0.3	▲0.8	0.9	0.0	0.4	2.3	1.3	8.8	▲1.8	▲0.1	0.8	5.5
	4月	0.7	▲0.7	▲0.2	▲1.3	▲0.1	6.0	1.8	12.5	1.1	▲2.9	0.7	3.9
	5月	▲1.6	4.7	▲0.6	4.5	1.5	7.0	0.9	8.2	2.6	3.0	3.2	11.5
	6月	5.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7月	▲0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)23年6月、7月は、製造工業生産予測調査の数値

○自動車の下振れで4か月ぶりの低下

経済産業省から公表された23年5月の鉱工業生産は、前月比▲1.6%と4か月ぶりの低下となり、事前の市場予想(前月比▲0.9%)を下回る結果となった。

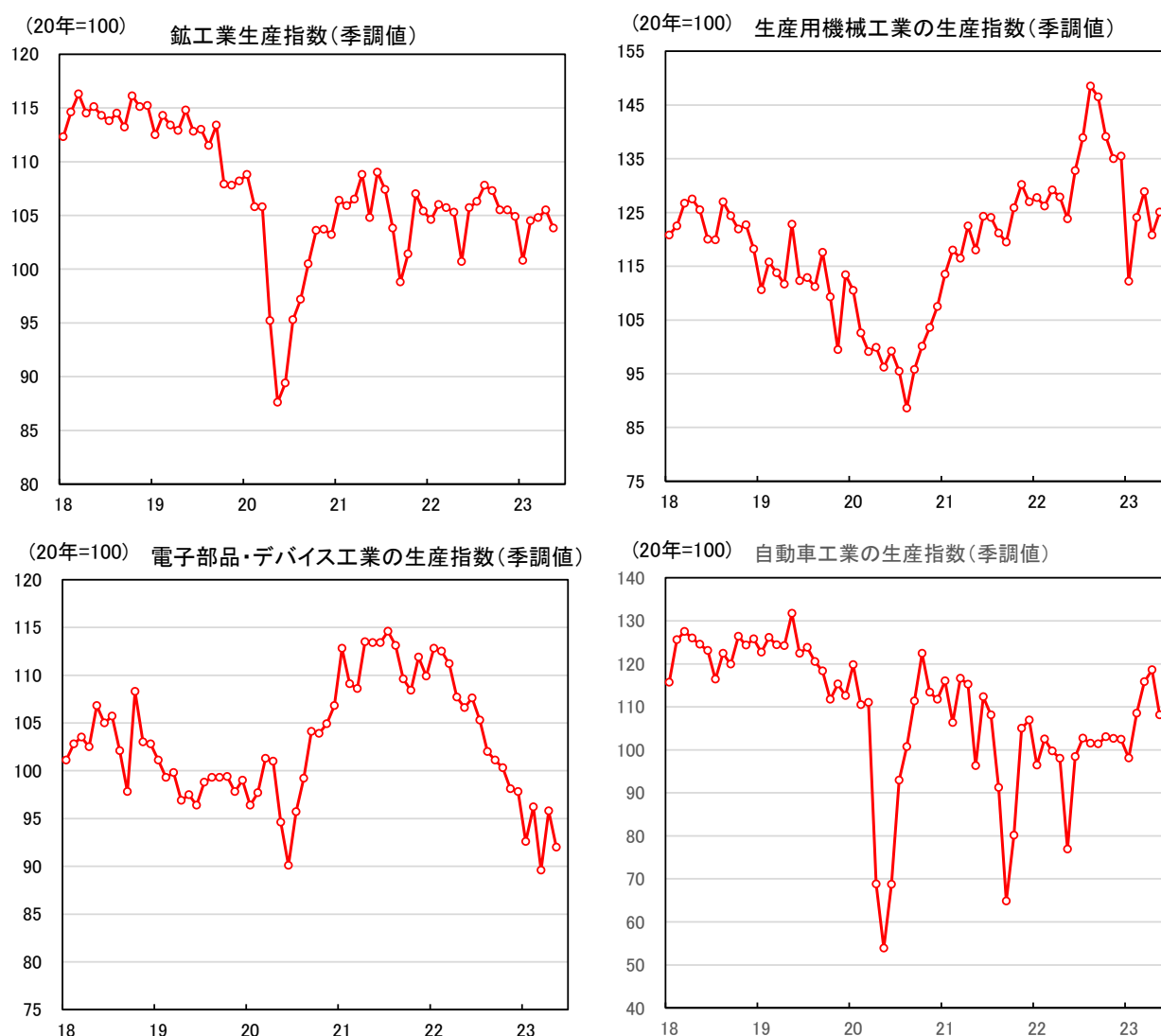
今回の下振れのほとんどの原因は、自動車工業の低下だ(前月比▲8.9%、前月比寄与度▲1.24%pt)。自動車工業は年明け以降、部品等供給不足の緩和で3か月連続の早いペースで上昇が続いてきたため、その反動が出た格好だ。もっとも、これまでの先送りにされてきた累積需要で米国の自動車販売は堅調であることなどから、今後も持ち直し傾向は続くとみられる。ただし、後述の通り、自動車工業を含む輸送用機械の6月、7月の生産計画は強くなく、今後は金融引き締めの影響による経済減速を受け、その回復ペースは鈍化する可能性が高いだろう。

○4-6月期は3四半期ぶりの増産見込み

同時に公表された製造工業予測指数は、6月が前月比+5.6%、7月が同▲0.6%となった。5月の落ち込みの後、6月は+5.6%と大きくリバウンドが見込まれている。予測指数には上振れバイアスがあり、こうしたバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値でも、6月は前月比+3.4%と明確な増産となる見込みだ。仮に6月が経産省補正值通りの結果となれば、4-6月期は前期比+2.1%と3四半期ぶりの増産に転じることになる。

もつとも、6月の上昇を牽引している生産用機械（6月予測指数：前月比+10.0%）は、4月実現率▲10.8%、5月実現率▲10.4%と大きい下方修正が続いており、6月も下振れに注意が必要だろう。また、5月の落ち込みの原因だった主力の自動車工業を含む輸送用機械は、6月の生産計画も前月比▲5.9%と減少が見込まれており、7月も前月比+1.6%と前月までの落ち込みを取り戻すには至らない。年明け以降、自動車生産の回復が鉱工業生産全体を下支えしていたため、自動車生産の鈍化は懸念材料だ。

先行きも、7-9月期以降は米国経済の減速が明確化することにより、海外需要の減少から順調な回復は見込みがたいだろう。総じて、鉱工業生産の先行きは下押し圧力の強い状況が続き、明確な持ち直しが見られるのは年度後半まで待つ必要があるだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。